



米国のテスト開発機関ETS

TOEIC® Programの変遷

社会の出来事

●世界最大のテスト開発機関Educational Testing Service (以下、ETS) にTOEIC® L&R の開発を依頼する

●TOEIC® 運営委員会設立、第1回TOEIC® L&R公開テスト実施 (会場: 全国5都市 札幌・東京・名古屋・大阪・福岡 / 総受験者数2,773人)

●TOEIC® LPI (Language Proficiency Interview) 開始 (2010年3月終了)

●TOEIC® L&R 団体特別受験制度 (IPテスト) がスタート

TOEIC® 運営委員会 (現在は当協会) の管理下で実施し、個人が直接申し込む「公開テスト」と、企業・大学などの団体が、所属社員・学生などを対象に実施する「IPテスト」の2つの受験制度が確立した。

●TOEIC® L&R 受験者数が累計20万人突破

●財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) 設立

●TOEIC® L&R 受験者数が累計50万人突破

●TOEIC® L&R 受験者数が累計100万人突破

TOEIC® L&Rがスタートして10年という節目で、累計の受験者数が100万人という大台に乗った。同年11月に、TOEIC® L&R 10周年記念国際シンポジウムを開催した。



TOEIC® L&R 10周年記念国際シンポジウム

●長野オリンピック・パラリンピック (1998年開幕) の語学ボランティアの英語能力測定にTOEIC® L&Rが採用



長野オリンピック・パラリンピックの際のTOEIC® L&R会場風景

●TOEIC® L&R 受験者数が累計500万人突破、TOEIC® 公式サイト開設

●インターネット申込を開始 (初回は「大阪・京都・神戸限定」でスタート)

●TOEIC® 公式ガイド & 問題集発刊

●TOEIC® L&R コンビニ端末申込を開始、TOEIC Bridge® L&R 公開テスト / IPテストがスタート

個別テスト名などに関しては、現在の表記を使用。TOEIC® L&RはTOEIC® Listening & Reading Test、TOEIC® S&WはTOEIC® Speaking & Writing Tests、TOEIC Bridge® L&RはTOEIC Bridge® Listening & Reading Tests、IPテストは団体特別受験制度 (IP: Institutional Program) の略称

TOEIC® Program 4

年の歩み

- 1977 王貞治が本塁打世界最高記録樹立、日米カラーテレビOMA (市場秩序維持) 協定が締結される
- 1978 新東京国際空港 (現・成田国際空港) 開港
- 1979 初の国公立大学共通1次試験実施、第2次石油危機、ヘッドフォンステレオ「ウォークマン」が発売
- 1980 自動車生産台数が米国を抜き世界一に
- 1981 対米自動車自主輸出規制実施
- 1982
- 1983 東京ディズニーランド開園
- 1984
- 1985 プラザ合意
- 1986 男女雇用機会均等法施行
- 1987 日本国有鉄道が分割民営化、ニューヨーク株式市場で大暴落 (暗黒の月曜日)
- 1988 渡米の際ビザ (査証) が不要に
- 1989 平成に改元、消費税スタート (3%)、東京証券取引所の平均株価が史上最高値に (3万8,915円 終値)
- 1990 第1回大学入試センター試験実施、海外渡航者が年間1,000万人を突破
- 1991
- 1992 この頃就職氷河期に突入
- 1993 欧州連合 (EU) 発足
- 1994 ニューヨーク外為市場で初めて1ドル=100円を突破、関西国際空港開港
- 1995 阪神・淡路大震災、東京外為市場で1ドル=79.75円の戦後最高値を記録
- 1996 デジタル多チャンネル放送が開始
- 1997 消費税の税率を3%から5%に引き上げ
- 1998 長野オリンピック・パラリンピック開幕
- 1999 世界人口が60億人を突破
- 2000 第26回主要国首脳会議 (九州・沖縄サミット) が開催
- 2001 米で同時多発テロ

TOEIC® Programの変遷

社会の出来事

- TOEIC® L&R 受験者数が累計1,000万人突破

「TOEIC® Tests」
ニューバージョン
発表会の模様



- TOEIC® インターネットサービス(会員登録サービス)を開始

- 第122回 TOEIC® L&R 公開テストからリニューアルした TOEIC® L&R がスタート

- TOEIC® S&W 公開テストがスタート

- TOEIC® S&W IP テストがスタート

- TOEIC® Program 30周年を迎える、TOEIC® L&R 受験者数が累計2,000万人突破



TOEIC® L&R 受験者数
累計2,000万人突破を
記念し、ETSから贈呈
された記念品

- IIBC が財団法人から一般財団法人へ移行

- TOEIC® L&R 公開テストが年10回実施体制に

- TOEIC® L&R 受験者数が累計3,000万人突破

- TOEIC® L&R 単月(3月)での受験者数が過去最高20万5,600人

- 第210回 TOEIC® L&R 公開テストから出題形式の変更、及び各テストの名称変更

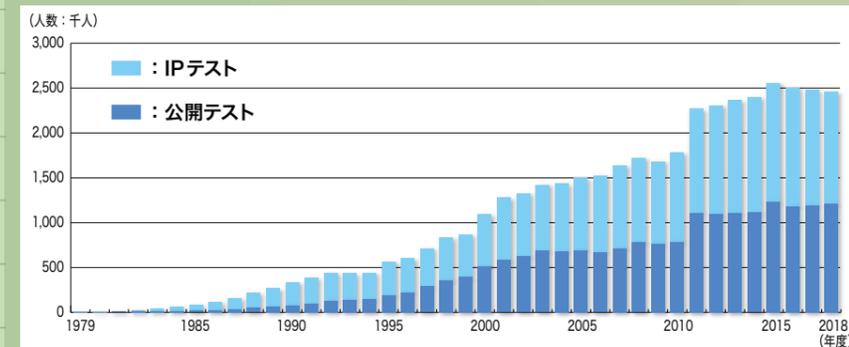
現在の名称へ変更：TOEIC® テストを TOEIC® Listening & Reading Test、TOEIC® Speaking & Writing を TOEIC® Speaking & Writing Tests、TOEIC Bridge® を TOEIC Bridge® Test にそれぞれ変更 ※ TOEIC Bridge® Test は、2019年に再度変更

- TOEIC® L&R 受験者数が累計4,000万人突破

- TOEIC® Program 40周年を迎える、TOEIC Bridge® Test がリデザイン

2技能から4技能の
TOEIC Bridge® Testsへ

TOEIC® L&R 受験者数の推移



TOEIC® S&W 受験者数の推移



年	社会の出来事
2002	欧州連合 (EU) の共通通貨ユーロ流通開始
2003	国立大学法人化、文部科学省が「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」を策定
2004	
2005	中部国際空港「セントレア」開港
2006	大学入試センター試験に英語のリスニングが導入
2007	郵政民営化がスタート
2008	リーマン・ブラザーズが経営破綻(リーマン・ショック)
2009	裁判員制度がスタート
2010	中国のGDPが日本を抜き世界第2位に
2011	東日本大震災、小学校外国語活動が正式に導入
2012	東京スカイツリー開業
2013	2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会が東京に決定、文部科学省が「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表
2014	消費税の税率を5%から8%に引き上げ
2015	マイナンバー法施行
2016	訪日外国人旅行者数が初めて2,000万人(年間)を超える
2017	
2018	訪日外国人旅行者数が初めて3,000万人(年間)を超える
2019	令和に改元、ラグビーワールドカップ2019日本大会開催、消費税の税率を8%から10%に引き上げ
2020	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開幕(予定)
2021	
2022	
2023	
2024	
2025	

to the future